

2 県・市町村・NPO・企業の

取り組み

生物多様性に係る施策の実施状況(県庁内)

県自然保護課(平成18年10月)

所属名		調査・研究	資料・情報	計画・指針等の策定	具体的な事業	普及・教育・啓発	その他施策
総合企画部	企画調整課	●	●	●	●	●	●
健康福祉部	衛生指導課			●	●	●	
環境生活部	環境政策課		●			●	●
	水質保全課		●	●		●	●
	自然保護課	●	●	●	●	●	●
	資源循環推進課			●			
商工労働部	産業振興課						●
	保安課						●
農林水産部	安全農業推進課						●
	農地課			●			
	耕地課	●		●		●	
	農村整備課				●		
	林務課	●		●			●
	みどり推進課		●	●		●	●
	水産課	●		●			
	漁業資源課	●		●	●		
	漁港課			●	●		
県土整備部	都市計画課			●		●	
	道路計画課	●			●		
	河川計画課	●		●		●	
	河川環境課	●	●	●	●	●	●
	公園緑地課	●			●		
県土整備部	下水道課	●	●				
	香取地域整備センター	●	●				
教育庁	教育振興部 文化財課		●		●	●	
企業庁	総務課	●	●		●		
資料研究財団			●				
千葉県衛生研究所		●	●			●	
環境研究センター		●	●			●	
千葉県立中央博物館		●	●	●	●	●	●
農業総合研究センター		●	●				
森林研究センター		●	●			●	●
水産総合研究センター		●	●			●	

生物多様性に係る施策の実施状況(県庁内)

県自然保護課調査(平成18年10月)

所属名	調査・研究	資料・情報	計画・指針等の策定	具体的な事業	普及・教育・啓発	その他施策	
総合企画部	企画調整課	①主に昭和60年代以降、三番瀬の埋立を前提にした環境影響評価の基礎資料とするため、地形・底質・底生生物・鳥類などの調査を実施 ②環境会議の提言を受け、三番瀬の自然環境の仕組みを把握するため、補足調査を実施 ③三番瀬円卓会議において、現況把握の必要性が指摘され、調査を実施	H15年度三番瀬自然環境総合解析「三番瀬の現状」、「市川二期・京葉港二期地区計画に係る環境の現況について」ほか	千葉県三番瀬再生計画(H18策定予定)、基本計画、事業計画	干潟の環境(干出域等)形成の検討・試験、淡水導入の検討・試験、自然再生(湿地再生)事業	インターネットによる情報発信、広報拠点活用事業、三番瀬フェスタ開催事業、三番瀬再生事業の支援と広報、三番瀬再生クラブ(仮称)の設立、三番瀬再生キッズ育成事業	海や浜辺の利用のルール作りの取組み、三番瀬の再生・保全・利用のための条例の制定
健康福祉部	衛生指導課	—	—	千葉県動物愛護管理推進計画(動物の愛護及び管理に関する法律第6条に基づく計画)*H19年度策定予定	動物愛護管理事業(普及・啓発)	動物の飼い方等、リーフレット他	—
環境生活部	環境政策課	—	—	三番瀬データベース維持事業(三番瀬に関する生物・水質等調査結果をデータベース化し、県内2箇所ですべて公開するシステムの管理及びデータの更新を行うもの。)	—	①三番瀬自然環境合同調査事業(三番瀬の自然環境について、県民等に参加を募って調査を実施し、三番瀬に対する理解を深めるとともに、参加者が主体的に実施できるようにリーダーを育成するもの。) ②環境学習の指導者養成講座(エコマインド養成講座)に自然環境の保全に関するカリキュラムを設けて実施している。	千葉県が策定した「ちば環境再生計画」に基づいて千葉県環境財団に設置された「ちば環境再生基金」により、次の活動に助成している。 ①NPOや市民団体による「自然環境の保全と再生」の活動 ②市町村が地域の住民等と連携を図りながら計画的に実施する自然環境の保全・再生事業
	水質保全課	—	①手賀沼湧水マップ(H13.6作成):手賀沼流域における主な湧水の分布状況、分布図等 ②印旛沼流域湧水マップ(H15.3作成):印旛沼流域における主な湧水の分布状況、分布図	手賀沼水循環行動回復計画(H15.7策定):手賀沼流域の残された自然環境を生かし水量の確保、水生生物や水辺の保全という一体的な水環境の回復を図る。 目標1:人々が手賀沼の水辺で遊ぶことができる水質の実現 目標2:多様な生物の生育・生息環境の保全再生と水生植物の復活	—	環境省が調査方法を定めた「水生生物による水質判定」に基づき、生物と直に触れ合う調査を実施することにより、水環境の把握を図るとともに、一般県民に対する水環境の保全への啓発効果を図る。調査結果は環境省ホームページの全国水生生物調査のページにより公表。	○水生植物の再生事業(H17年度~) 手賀沼流域の小中学校やNPOと連携し、かつて手賀沼に生育していたガシヤモク等の水生植物を再生し、健全な水辺環境の回復を図る。(手賀沼水環境保全協議会)
	自然保護課	自然環境調査、三番瀬の自然環境調査、野生鳥獣生息調査、千葉県射撃場環境モニタリング調査(排水等モニタリング調査委託・沈砂地維持管理)、自然公園自然環境・現況調査、車両乗入れ規制区域指定調査	各種調査結果、千葉県レポートブック、ビオトープ事例集	千葉県自然環境基本方針、千葉県自然環境保全条例、千葉県立自然公園条例、千葉県自然公園等における建築物等の建設に係る指導要綱、千葉県自然公園特別地域における大規模な開発行為に係る指導要綱、千葉県特定鳥獣保護管理計画、ビオトープ推進マニュアル	外来種緊急対策特別事業、野生鳥獣管理対策事業、自然環境保全地域等の指定及び保全、自然環境保全協定及び工場等緑化協定、ミヤコタゴ保護増殖事業、大福山北部周辺公有化事業、行徳湿地再整備事業、生物多様性検討事業、野生鳥獣保護施設整備事業、傷病野生鳥獣救護事業、放鳥事業、行徳鳥獣保護区の維持管理、自然公園の指定、自然公園の管理(許認可、指導員の設置)県立九十九里自然公園内車両乗入れ規制	生物の生息空間(ビオトープ)を確保した地域づくりの推進、鳥獣保護思想の普及啓発事業(ポスターコンクール)、ウエトラント環境教育推進事業、狩猟事故防止対策及び取締	「みどりの基金」造成事業、自然遊歩道整備事業
	資源循環推進課	—	—	「千葉県資源循環型社会づくり計画」では、3つの視点から千葉県が目指す将来像を定めているが、その一つとして環境の視点から「恵み豊かな環境が保全され、人と自然が共生できる社会」を目指すこととしている。そのビジョンに基づき、県民、NPO、事業者、行政等が主体的に取り組む行動指針として、自然浄化能力を維持増進し生物多様性の確保にも資する取組みを示している。なお、現在、計画の改定作業中であるが、同取組については継続する予定である。	—	—	—
商工労働部	産業振興課	—	—	—	—	—	H19年度に、東京大学とかずさDNA研究所との共同研究を実施。今後、国際的に地球環境の研究を行う産学官連携であるプロジェクト研究推進協議会の設置を予定。
	保安課	—	—	—	—	—	採取計画認可申請にあたり、採取終了区域の植栽緑化・一部廃止を計画的に行うための中期事業計画書の提出を求め、着実に履行するよう指導している。

所属名	調査・研究	資料・情報	計画・指針等の策定	具体的な事業	普及・教育・啓発	その他施策	
農林水産部	安全農業推進課	—	—	—	—	○環境対策関連施策 ちばEco農業産地拡大スピードアップ支援事業(通常と比べて、化学合成農薬や化学肥料を1/2以下に減らして栽培する農産物について、「ちばEco農産物」として、県独自の認証を行う。) ○中間地域等直接支払交付金 中間地域において、農業生産の維持を通じて多面的機能を確保する観点から、5年以上農業生産活動等を維持する農業者等に面積等に応じて交付金を交付する。	
	農地課	—	○市町村が策定する景観農業振興地域整備計画 景観法に基づき、市町村が策定する景観農業振興地域整備計画の知事協議に際し、法定要件を審査するとともに、農業振興地域内において、景観と調和の取れた良好な営農条件の確保を図るべき区域として、農村地域に特有な景観の保全・創出について助言する。	—	—	—	
	耕地課	○生態系保全型水田整備推進事業(平成13～17年度) 捕場整備事業実施地区内での排水路内の魚道工について、モニタリング調査等実施。 ○田んぼの生き物調査(H13～) 水田周辺地域に生息する生物の実態把握を目的とした農林水産省と環境省の連携による「田んぼの生き物調査」を県内4地区で実施。	千葉・新ふるさとづくり(千葉県農業農村整備環境対策指針)(H9策定)	—	千葉・新ふるさとづくり(農村に自然をとりもどそう H9)、埴生川Ⅲ期地区の捕場整備(生き物たちのにぎわいのある田んぼづくりへの挑戦)のPRパンフレットの作成。	—	
	農村整備課	—	—	希少種保全のためのハード整備、メカに配慮した水路整備、ビオトープの創出、景観林の創出	—	—	
	林務課	森林資源モニタリング調査(県内100箇所の定点＝森林について、森林の樹種や現存量などの状況や変化の動向を5年ごとに国が定めた全国一律の方法で調査中)	千葉県北部地域森林計画(森林整備の指針等)、千葉県南部地域森林計画(森林整備の指針等)	—	—	放置・拡大竹林の再整備モデル事業(平成19年度新規要求中)	
	みどり推進課	—	みどりの百選	千葉県里山条例、里山基本計画	—	里山フェスティバル、里山一日体験により県民に対し、里山条例の趣旨、理念の浸透を図る。	里山総合保全整備事業により里山活動団体等への総合支援を実施。
	水産課	三番瀬の魚場環境について、環境特性と漁業生産の状況を整理した漁場特性マップを作成し、魚場再生に向けた検討を進める。	「三番瀬漁場再生の目標」を策定	—	—	—	
	漁業資源課	三番瀬において、藻場造成試験を行うため、陸上池におけるアマモ株の育成と採種の実施	三番瀬再生計画(事業計画)素案	藻場造成試験	—	—	
	漁港課	—	広域漁港整備事業「乙浜漁港自然調和型漁港づくり事業」	乙浜漁港・東沖防波堤の建設に当たり、従来の防波堤より背後の捨石マウンド幅を40m広くし、水産動植物の生息が可能となるようなブロック等を設置し漁礁効果を付加する。	—	—	
県土整備部	都市計画課(美しい県土づくり担当)	—	・県景観条例検討中、条例に基づく基本方針検討中 ・千葉県広域景観計画検討中(景観法第8条) ・千葉県景観形成指針(H5策定)	—	景観に対する意識の高揚のため、景観法説明会、講演会、出前講座、フォーラム(12月実施)などの普及啓発を行っている。	—	
	道路計画課	銚子連絡道路(横芝光～匝瑳市間 完成2車線、約5km)の事業着手に向け、条例に準じた内容で環境調査を実施。	—	環境調査を踏まえ、自然環境等に配慮しながら、事業を実施する。	—	—	
	河川計画課	印旛沼へ流入する河川等の水質調査	印旛沼流域水循環健全化緊急行動計画「恵みの沼をふたたび」	—	「印旛沼わいわい会議」(自然環境に関する分科会あり)、緊急行動大会(「恵みの沼をふたたび」、副読本の作成(小学校の環境学習で使用))	—	
	河川環境課	河川法に基づく県管理河川における生態系事前・事後調査(事業区間のみ)、河川法に基づく県管理河川における水辺の国勢調査(全河川ではない)	河川環境情報図(計画のある河川のみ)、千葉県の河川(冊子)、パンフレットの作成(水系ごと)、ホームページ(河川環境課、河川計画課)	多自然川づくり基本指針(国土交通省通達)、美しい山河をつくる災害復旧基本方針(国土交通省通達)、21世紀の千葉県の川づくりの方向性(3つの提言)、千葉県溪流環境整備計画、印旛村流域水循環健全化緊急行動計画、各河川における河川整備基本方針及び河川整備計画	典型性、典型性ヒット、特定種、希少種に配慮した河川整備や管理(カワセミ、コウホネ、ヨシ原)	千葉県河川(冊子)、パンフレットの作成(水系ごと)、生き生き川づくり担当者会議(各事務所の河川担当者による事例研究、毎年1回開催)、小中学校における水辺をフィールドとした環境学習の支援	河川堤防除草における特定外来生物(アレチウリ)の駆除の留意事項を各整備事務所に通知し、駆除を実施。

所属名	調査・研究	資料・情報	計画・指針等の策定	具体的な事業	普及・教育・啓発	その他施策
	公園緑地課	青葉の森公園:毎木調査(移植・保存樹木等の調査)、長生の森公園:自然環境調査	—	—	—	—
県土整備部	下水道課	放流水先の公共水域の環境調査など。	放流水影響調査、放流水海域調査など。	—	—	—
	香取地域整備センター	植物ナガバコウホネの育成状況の把握及び河川内における保護・移植調査の実施(H15～17)	植物ナガバコウホネの育成状況資料	—	—	—
教育庁	教育振興部文化財課	—	『ふさの国の文化財総覧』全三巻、ふさの国文化財ナビゲーション(教育庁ホームページで公開)	県立博物館がこれまで蓄積してきた多くの資料・情報と高い専門性と基に、各館周辺地域の自然や文化そのものを「資料」と考え、海・山・川の3分野のフィールドミュージアムをネットワーク化した「千葉フィールドミュージアム事業」を実施。	県内の国・県指定文化財をまとめた『ふさの国の文化財総覧』全三巻の刊行(H15～16年度) 川のフィールドミュージアム「田んぼと水路の生き物」における自然観察と生物分布マップの作成(県立大根博物館)、「江戸を探すー関宿城下散策ー」における文化財散策と、文化財マップの作成と解説版の設置(県立関宿城博物館)、海のフィールドミュージアム「沖ノ島」における生物分布マップの作成(県立安房博物館)(H18年度)など。	—
企業庁	総務課	山倉ダムの堤体強化工事に伴う自主的な自然環境調査の実施。	堤体強化工事後3年間(H17～19年度)の水生生物等の追跡調査として工事後の回復状況一覽等。	—	—	—
史料研究財団	—	—	「千葉県の自然誌」編纂にかかるデータ	—	—	—
千葉県衛生研究所	感染症媒介力の生息実態調査	動物寄生性ダニ類(マダニ、ツツガムシ、トゲダニ他)、シラミ類、ミミズ類 ⇒千葉県の自然誌本編6 千葉県の動物Ⅱ 陸と淡水の動物ヤマビル、千葉県衛生研究所1997(ヤマビルの生態と防除に関する調査報告書)	—	—	—	ニホンヤマビルの生態についての一般向け講義
環境研究センター	東京湾プランクトン調査(継続)、三番瀬の海藻調査(1993年)、(三番瀬)カキ礁調査(2006年)	水質保全研究年報(赤潮等プランクトン調査)	—	—	—	手賀沼流域市民協働調査(水質保全課主催)、河川協働調査、生協環境調査の協力等
千葉県立中央博物館	①重点研究課題3研究 「外来生物の分布・生態と自然環境の保全復元」、「房総における古環境と人類活動」、「子どもの自然・文化体験に果たす植物館の役割」 ②地域研究課題29研究 ○房総の分類学的多様性の特徴とその保全、○房総の生物学的多様性の特徴とその保全、○その他 ③普遍研究課題24研究 ○分類学的多様性に関する基礎的研究、○生態学的多様性の維持機構に関する基礎的研究、○その他	県内外の自然・生物・文化にかかわる資料・情報・標本の収集・保存。資料標本台帳(簿冊・カード・デジタル情報)収蔵資料約57万点。	千葉県の自然・文化に関する資料・情報収集を当館の使命の一つと位置付けている。また、事業中期目標(期間:H16～20)の5章「フィールドミュージアム事業の展開」において、生態園、房総の山のフィールドミュージアム、海の博物館それぞれにおいて、生物多様性を維持管理するための調査研究及び学習支援を行うことを掲げている。	博物館におけるフィールド事業として①「生態園」の生物・環境の維持管理および教育的活用(生態園の生物・環境を維持管理して保全・再生を図りつつ、その生態系を活用した教育普及活動を実施している。)②「房総の山のフィールドミュージアム」推進事業(君津市の清和県民の森を中心とした房総丘陵をフィールドとして、地域の人たちとの協働による調査研究・資料収集等の多様な博物館活動を実施している。)	「生態園」での自然学習に対する教員向けガイドブック作成等、「山のフィールドミュージアム」での自然観察路の整備等、「市民研究員」養成のための観察会等、教員・指導者向けの講座の開催等	千葉県の自然・文化にかかわる常設展、企画展を本館及び分館等で開催
農業総合研究センター	(1)「ちばエコ農業」の推進を図るため、本県主力品目のエコ栽培技術を開発し、実証試験を平成16年度から実施。 (2)環境負荷がより少ない養液栽培技術の開発および廃液浄化システムの実用性評価について実施。 (3)環境と調和した環境保全型農林業を推進するため、化学合成農薬、化学肥料由来窒素を減らした生産技術の開発試験を実施。 (4)ゴルフ場の無農薬化を推進するため、芝管理の無農薬化に関する技術開発を実施。 (5)野生鳥獣による農作物の被害を提言するため、有効対策について試験を実施。 (6)自然環境に配慮した農用地の整備を推進するため、排水路護岸工法の開発試験を実施。	(1)試験内容については千葉県農業総合センター業務概要 (2)試験結果については各年次の試験成績書 (3)完了した試験については研究成果集、それに付随する資料、パンフレット等	—	—	—	—
森林研究センター	マテバシイ分布調査、ヒコマツの保全(県立中央博物館、東大演習林)、治山工事の法面緑化における吹き付け種子配合の検討、海岸防災林に混生するコシアカシアの管理技術、シカ・イノシシ・サルによる林業被害対策、竹林再生モニタリング調査(H19年度新規要求中)	重要森林位置図、スキ巨木調査台帳、巨樹古木調査台帳	—	—	—	里山活動によるちばの森づくり(ガイドブック)作成、里山巡回相談(みどり推進課と連携)

所属名	調査・研究	資料・情報	計画・指針等の策定	具体的な事業	普及・教育・啓発	その他施策
水産総合研究センター	水産生物の分布・生活史の研究、魚場環境の調査	千葉県の水産動物相(千葉県水産試験場研究報告,第57号,2001)、印旛沼における張網漁獲物組成の変遷、夷隅川の魚類・甲殻類目録、与田浦の魚類・甲殻類目録、湊川の魚類・甲殻類目録、栗山川の魚類・甲殻類目録(千葉県内水面水産試験場研究報告,第6号,1996)、利根川の魚類・甲殻類目録、南白亀川の魚類・甲殻類目録、養老川の魚類・甲殻類目録(千葉県内水面水産試験場研究報告,第7号,2000)	—	—	相談窓口の設置、漁業環境に関する情報提供等	—